

2008年2月26日

ニュース・リリース

アンチがん細胞社とキャリパー社は「知的所有権の相互利用」と
「訴訟の和解」を発表

--- クロスライセンスの結果、両社の蛍光蛋白イメージングの特許の包括的商業利用が可能となる。 ---

--- 両社はイメージング関連商品の販売についても協力する予定である ---

ホプキントン(マサチューセッツ州)・サンディエゴ(カリフォルニア州)-2008年2月26日
キャリパーライフサイエンス(NASDAQ: CALP)とアンチがん細胞社は、本日クロスライセンス関係を確立し、両社間の全ての未解決の特許訴訟を終結する合意に達したことを発表した。新しいクロスライセンス協定により、キャリパー社は、キャリパー社の持つ *in vivo* 蛍光および生物発光イメージングに関する一連の特許と一緒に、アンチがん細胞社の蛍光蛋白イメージングの権利を第三者にサブライセンスする権利を獲得する。一方、アンチがん細胞社は、アンチがん細胞社の持つ蛍光蛋白イメージング特許と一緒に、蛍光蛋白イメージングの分野に於けるキャリパー社の光学イメージング特許を本協定が有効な期間、特定の第三者にサブライセンスする権利を獲得する。更に、各々の会社は内部の研究活動や受託研究活動について相手方から使用量なしにライセンスを受け取る。

この協定は、キャリパー社の顧客が使用できる蛍光蛋白を使った光学イメージングの権利の範囲を明確に拡大する知的所有権を強化する。製薬会社やバイオテック企業のニーズに合った光学イメージング技術を提供することに焦点を当て、キャリパー社は、癌やその他の重要な治療薬開発の分野で卓越した研究の柔軟性を可能にするよう継続して努力する。

本クロスライセンス協定によって、キャリパー社とアンチがん細胞社は、蛍光蛋白の分野での独占イメージング技術から得られるいかなる収入をも分かち合うものとする。和解あるいはクロスライセンス協定に関して、その他の支払いは一切ないものとする。クロスライセンス協定についての資金の流れの詳細は開示しないものとする。

両社は、蛍光蛋白を使った光学イメージング技術を使ってアンチがん細胞社が開発したマウスや細胞株をキャリパー社が販売する OEM 販売契約を締結することを期待している。

キャリパー社の社長兼最高経営責任者であるケヴィン・フルソフスキーは、『この和解とその結果としてのキャリパー社とアンチがん細胞社の緊密な提携は *in vivo* 分子イメージングの領域にとって大きな前進である』また『生物発光と蛍光共役イメージングの中での我々の特異な位置に加えて、このクロスライセンス協定は、キャリパー社のこれまで及び

将来の顧客に対して蛍光蛋白を使った光学イメージングについてのより広範な知的所有権を提供することを可能にした。またこのクロスライセンス協定はこの分野での知的所有権に関して市場に於ける不明確さを大幅に減少させた。我々は、アンチキャンサー社が開発した蛍光蛋白で標識した細胞株を販売することによって我々のビジネスを拡大させる機会を楽しみにしている。』と述べた。

アンチキャンサー社の社長兼 CEO であるロバート・ホフマン博士は『我々は、多くの前臨床光学イメージング装置の分野での先駆者であるキャリパー社と一緒に仕事ができることを大変嬉しく思っている』『アンチキャンサー社は、先駆的蛍光イメージング技術を大幅に進歩させたキャリパー社のような傑出した会社をパートナーとできることを大変嬉しく思っている。アンチキャンサー社の使命はこれまで常に癌の治療技術の開発であった、そして我々はアンチキャンサー社とキャリパー社の革新的技術を一緒にしてこの使命をさらに前進させることを楽しみにしている』と述べた。

キャリパーライフサイエンスにつて：

キャリパーライフサイエンス社は、ライフサイエンスの研究者に、医薬品や診断薬の開発をより早くより効率的に創造できるような先端技術の主要な提供者である。

キャリパー社は、*in vitro* の測定と *in vivo* の結果の間のギャップを埋めるためや、これらの結果をヒトの病気の治療に応用するために果敢に新技術を取り入れている。

キャリパー社の技術ポートフォリオは、最新の微小流体光学、ラボラトリー・オートメーション、流体処理、光学イメージング技術、発見や開発の外部委託による解決法、からなっている。更に詳しく知りたい方は、www.caliperLS.com へどうぞ。

アンチキャンサー社について：

サン・ディエゴに 1984 年に設立されたアンチキャンサー社は、薬の開発と評価を可能にした技術である小動物の蛍光イメージングの先駆者である。アンチキャンサー社は **MetaMouse[®]** や **AngioMouse[®]** をはじめとする卓越した腫瘍のマウスモデルを開発してきました。これらのモデルは蛍光蛋白を使ったアンチキャンサー社の **OncoBrite[®]** 技術によってイメージングすることができる。また、アンチキャンサー社は、個々の患者に適した治療を提供するための **Histo-culture Drug Response Assay(HDRA)**を開発した。また、アンチキャンサー社は毛包の遺伝子治療のパイオニアであり、そして今や再生医療のために多用途毛包幹細胞利用の先駆者となっている。さらに、アンチキャンサー社は、癌やその他の病気の遺伝子治療ばかりではなくて組換え酵素を使った癌や心臓血管疾患や AIDS 治療法や診断法を開発している。アンチキャンサー社の最新の技術は、癌治療のための腫瘍追尾型細菌の開発である。アンチキャンサー社は、全世界に 100 以上の特許を取得している。

OEM 販売契約を開始しようとするキャリパー社とアンチキヤンサー社の意思や、アンチキヤンサー社との新たなクロスライセンス協定がキャリパー社に光学イメージング事業をさらに発展させるであろうというキャリパー社の期待のような将来の事柄に関するこのプレスリリースでの記述は、1934 の”Securities Exchange Act”の Section 21E の範囲内の、将来に備えた記述である。これらの記述は、キャリパー社とアンチキヤンサー社が OEM 販売契約条件で合意できなかつたり、キャリパー社がより広範な顧客に光学イメージング技術をライセンスするのに予期せぬ困難に遭遇したりするリスクを含む、多くの要因の結果として、将来に備えた仮説を基に熟慮した結果から大きくかけ離れたことになるリスクや不確定要素を仮定したものである。キャリパー社が直面するリスクについての更なる情報は、キャリパー社年次営業報告書(December 31, 2006)の”Risks Related To Our Business”に詳しく述べられている。我々のファイルは <http://www.sec.gov> の Securities and Exchange Commission で参照できる。キャリパー社は、このニュース・リリースについて “将来に備えた記述の修正” やその他の記述の修正にいかなる制約も受けない。

(注) Caliper は Caliper Life Science, Inc.の登録商標である。MetaMouse[®]、AngioMouse[®]、および OncoBrite[®]は AntiCancer Inc.の登録商標である。///